

長野県立美術館 東山魁夷館コレクション展 2023 第Ⅱ期

長野県立美術館(東山魁夷館)では、2023年度の「東山魁夷館コレクション展 第Ⅱ期」を下記のとおり開催します。ぜひ、取材をお願いします。取材を希望される場合は、当館広報担当まで事前にご連絡ください。

1 期間

2023(令和5)年6月22日(木)～8月22日(火)

*休館日＝水曜日

2 会場

長野県立美術館(東山魁夷館)
(長野市箱清水1-4-4 善光寺東隣)

3 開館時間

9:00～17:00(展示室入場は16:30まで)

4 観覧料(本館 NAM コレクション展共通)

一般700円、大学生及び75歳以上500円、高校生以下又は18歳未満無料

5 内容

連作「白い馬の見える風景」から《水辺の朝》、《草青む》とその習作群をはじめ、《沼の静寂》や《緑の窓》など夏の風景を描いた作品や、《石の窓》やドイツ・オーストリアの旅で得られたスケッチや習作などをご紹介します。

■関連イベント

ギャラリートーク(担当学芸員による展示解説)

(1)日時:2023(令和5)年7月15日(土)14:00～

(2)会場:東山魁夷館 展示室

(3)参加費:無料(但し、観覧料は必要)

(4)その他:申込不要

※諸般の事情により、イベント内容の変更や入場を制限する場合があります。



《草青む》1972年



東山魁夷館 外観

※裏面に東山魁夷館年間展示スケジュールあり

長野県立美術館

(副館長兼広報・マーケティング室長) 米山秀明

(学芸課 展覧会担当) 松浦千栄子

(広報担当) 日野麻由美

(電話) 026-232-0052 (FAX) 026-232-0050

(H P) <https://nagano.art.museum/>

(MAIL) nam-pr@naganobunka.or.jp

「東山魁夷館 コレクション展 2023」

平成2(1990)年に開館した東山魁夷館は、画家本人から寄贈された作品に加え、後に収集、寄贈された作品を含めると所蔵点数は970点あまり。2023年度は、《緑響く》や《白馬の森》、《行く秋》など本制作30点あまりを5期に分け、日本の古都を描いた「京洛四季」や「大和春秋」の連作、ヨーロッパの自然や街並みを描いた風景シリーズ、「白い馬の見える風景」や唐招提寺御影堂障壁画の準備作など、自然を深く見つめ、静謐な世界を表現した東山芸術の全容を、制作過程などと併せてご紹介いたします。

■第Ⅰ期:4月13日(木)―6月20日(火)

連作「白い馬の見える風景」の起点となった代表作《緑響く》や、東山が約10年をかけて取り組んだ「唐招提寺御影堂障壁画」の制作に取り組む中から生まれた《桂林月夜》、《瀧江暮色》、《黄山雨過》など、モノクロームの世界を中心に紹介します。また、絶筆となった《夕星》を展示します。

■第Ⅱ期:6月22日(木)―8月22日(火)

連作「白い馬の見える風景」から《水辺の朝》、《草青む》とその習作群をはじめ、《沼の静寂》、《緑の窓》など夏の風景を描いた作品、《石の窓》やドイツ・オーストリアの旅で得られたスケッチ、習作などをご紹介します。

■第Ⅲ期:8月24日(木)―10月31日(火)

学生時代の東山が志賀高原を描き帝展に出品した《山谿秋色》や、《紅翳》、《紅葉の谷》、大和路への取材から生まれた《秋思》など、東山が描いた様々な秋の風景をご紹介します。また、ドイツに取材した《窓》や、フランスの公園を描いた《静唱》などをご覧ください。

■第Ⅳ期:11月2日(木)―2024(令和6)年1月16日(火)

連作「白い馬の見える風景」のうち最大の作品《白馬の森》を中心に、楓の落葉が黄金色に敷き詰められた《行く秋》、幻想的な雰囲気漂う《夕紅》、《木枯らし舞う》など晩年描いた秋の景色などを展示します。

■第Ⅴ期:2024(令和6)年1月18日(木)―4月2日(火)

長野県の厳しい冬の様相を描き出す《霧氷の譜》や《冬の旅》をはじめ、春の訪れを描いた《春兆》や、《祭りの夜》、《柿生の里》など、学生時代の初期の作品をご紹介します。



長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum